

Economic Indicators

発表日: 2025 年 11 月 10 日(月)

景気動向指数(2025 年 9 月)

～10 月分で基調判断が「悪化」に下方修正される可能性も～

第一生命経済研究所

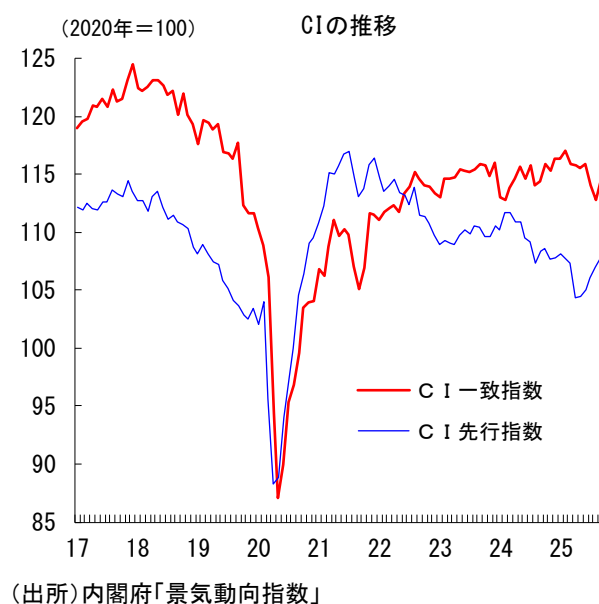
シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

C I 一致指数は3ヵ月ぶりの上昇

内閣府から公表された 2025 年 9 月の景気動向指数では、C I 一致指数が前月差+1.8 ポイントの上昇となった。内訳では、鉱工業生産指数や投資財出荷指数、輸出数量指数など輸出・生産関連系列の押し上げが大きい。

C I 一致指数は3ヵ月ぶりのプラスとなり、単月としての上昇幅もそれなりに大きい。7 月(▲1.8 ポイント)、8 月(▲1.3 ポイント)の低下からの反動の面も大きく、強い結果とは言えない。実際、C I 一致指数の 25 年 1 月～9 月の値を確認しても、前月差プラスが 3 回、マイナスが 5 回、横ばいが 1 回とマイナスが目立つ。また、25 年 9 月の水準は直近ピークである 2025 年 2 月の水準を 2.5 ポイント下回っている。均してみれば C I 一致指数は足元でやや弱い動きと判断される。



基調判断が10月分で「悪化」に下方修正されるリスクも

C I 一致指数の基調判断は「下げ止まり」で据え置かれた。これで 17 か月連続の「下げ止まり」判断である。

もっとも、次回 10 月分では、仮に C I 一致指数が前月差▲0.6 ポイント以下になれば、基調判断が「悪化」へ下方修正されることに注意が必要だ。ここで C I 一致指数と関連の深い鉱工業指数をみると、10 月の生産予測指数は経済産業省による補正試算値が前月比▲0.5%と小幅低下見込みとなっている。微妙なところではあるが、9 月分の上昇からの反動が出やすいことも考えると、10 月の基調判断が「悪化」になる可能性も相応にあるだろう。

仮に「悪化」となれば、2020 年 7 月以来のこととなる(2019 年 8 月～2020 年 7 月が「悪化」)。

「悪化」判断の定義は「景気後退の可能性が高いことを示す」であり、C I 上では景気後退シグナルが点灯する。仮に「悪化」判断に転じた場合でも、①過去の景気後退局面と比較して C I の落ち込み度合いがかなり軽微であること、②日銀短観等、C I 以外の経済指標では目立った落ち込みがみられないことなどを踏まえると、景気が後退局面に陥っているとする必要はないと思われるが、警戒しておくに越したことはない。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

